



■ 巻頭言

「今の日常が普通であり続けるためには」

日本製薬工業協会 理事長 木下 賢志 2

■ 最近の話題

ワクスマン温故知新

一般財団法人機能水研究振興財団 理事長 堀田 国元 4

■ トピックス

令和6年度事業計画について 6

「理事会」「評議員会」の概要報告 7

iyakuSearchのシステム改修につきまして
ー「添付文書情報」の機能改修点についてー 8

■ コラム

くすりの散歩道No.160「サウナの世界」
(一財)日本医薬情報センター 添付文書情報担当 牧野 智之 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋) 10

■ 図書館だより No.406 11

■ 情報提供一覧 11

「今の日常が普通であり続けるためには」

日本製薬工業協会 理事長

木下 賢志 *Kinoshita kenshi*



20年ぶりぐらいの海外出張の機会があり、どうしようかと準備をしている昨今であった。パスポートも公用ぐらいしか使ったことはなく、今回申請をしてきた。息子に3時間ぐらいかかるから、朝早くいかないと大変だよとか、写真の大きさが結構言われるよとか、戸籍謄本だよとか、いろいろ言われ、恐る恐る住所地を管轄するパスポートセンターに向かうが、たまたま雪の日であったせいか、4、5人ぐらいしかおらず、拍子抜け。30分で申請終了。なんと素晴らしいシステムだろうと感激した。しかも、担当の方がそばに寄り添い記入の仕方まで丁寧に教えていただいた。ただ、東京都での様子を聴くとこれが当たり前の風景ではなさそうだが。

こんな良い経験をしたあとに、米国在住の日本人の友人と夕食を共にした。仕事の話、家族の話、最近の趣味の話など話題は尽きない。そんな中で、私の仕事柄、医療の話に及ぶと日本で観る風景との違いが際立ってくる。これまでの私のバックグラウンドも医療行政にも携わっていたので、話としてはよく聴いた内容ではあるが、実体験として経験者本人から直接聴いたことはなかった。先日、ある手術を受けたらしく、その費用として約1000万円請求されたと切り出され、啞然とした。「で、払ったんですか?」「民間保険に加入しているから、あとで大部分がカバーされ、自己負担は数十万円で済んだから」と。「保険料は月額約30万円!!」。加えて「救急車を呼ぶと費用の請求がきますよ」。また啞然。

話をもとに戻すと。海外出張での移動やホテルの予約など詳しい秘書にやっていただいており不慣れな私が助けられているのであるが、先の友人や製薬関係者の方々のアドバイスによると、ホテルから外出しない方が良いとか、日本では簡単にコンビニや自販機により100

円ぐらいで買えるペットボトルもホテルでは1000円近くかかるとか、いい話は聞こえてこない。日本ってなんて安全で快適に暮らせる国なのだろう。やはり、日本は海外から見ると例外ということになるのであろう。海外からの観光客の皆さんに日本の良さを満喫してもらいたい。

そこで本題として、立場上将来の医療の姿に触れなくてはこのコーナーでの役割を果たしたことになるのではないと思ひ一緒に考えたい。

超高齢社会を迎え、国民医療費について財政負担のプレッシャーが大きいということで、その抑制方策が議論される。政府の財政制度等審議会が常に取上げるゆえんである。国民医療費は2021年度で約45兆円、一方、年金給付費は約54兆円。国庫負担はそれぞれほぼ13兆円前後。

ではなぜ、医療費が問題にされ、年金給付費は問題にされないのか。こう言う誤解があるので、付け加えると年金もその水準について国民年金の給付である基礎年金(40年加入で月額約6600円)だけの方々からは、厚生年金を有する方に比べて低い、これでは生活費は賄えないという意見は常にあり、基礎年金の水準をいかに上げていくかは今後の大きな課題である。とは言え、財政当局から問題にされないのは、負担水準に合わせて年金給付水準を自動的にコントロールする仕組み「マクロ経済スライド」がある。詳細は避けるが、5年に一度の年金財政の健全性をチェックすることになっている。つまり、現役世代が負担する年金保険料(厚生年金の場合、18.3%で固定)と年金積立金(約200兆円)による財源と、将来の年金給付の見込みが均衡するように、毎年、給付の自動調整がなされている。この積立金が医療保険と違い存在することも安定化の

カギでもある。このようなことから、財政当局からすれば一定の枠組みの中に納まっていることにより、問題視されないのである。

一方、医療費の場合は患者さんの受診行動や診療内容に依存しているために給付が一定で納まるというわけではなく、また、高齢化の進展による一人当たり医療費が高まる。

給付を抑えるという手法が取り難い。国民医療費のうち、患者負担を除いて毎年の保険料負担と公費負担で賄うことになりこれが赤字にならないよう、財政的な均衡を図るために、2年に一度の診療報酬改定の際に、給付の見直し（診療報酬の水準や薬価制度改革での対応）や負担の仕組みの見直し（保険料の見直し等）を繰り返さざるを得ない状況にあることが長期の保険である年金との違いである。

一方で、ご存じのとおり、患者負担割合を最大で3割を上限とすることは、平成14年度改革において法定化されており、現在までに見直されたことはない。しかも、高額療養費制度があり、月額上限が定められており、医療費の負担の高い方々については3割負担であっても実際には軽減される措置がある。

年金制度は、賃金や物価、金利の影響を受けるものの、それ以外の要素を加味する必要はないが、医療は医療技術の進歩や革新的な医薬品などイノベーションが反映され、これを保険制度に取り込むことは当然と考えられており、高齢化による医療費増よりも、これらの技術進歩等による影響の方が大きい。

こうしたことから、これまでに財政当局等から、医療費の伸び率を管理するために、GDPの伸びの範囲内に収めるように、年金のマクロ経済スライドのような仕組みの導入が提案されている。とは言え、GDPの伸び率を超えた部分をどのような方法でカットするのかその調整がこれまでと同じように難航することは想像に難くない。しかも、昨年からの日本経済の30年デフレがボトムアウトして、リカバリーの局面を迎えており、賃金と物価の好循環が生まれつつある状況においては、医療においても当然ながら賃金等への配慮が必要となる。

私たちは、いつでも、どこでも、保険証一枚（10月からはマイナンバーカード）で医療が受けられるという幸せを当たり前のように享受している。基本的に診療を拒否されることはない世界に生きている。この世界を大きく変えるという（受けられる医療機関を限定され、受けられる診療内容を制限される等）ということは誰も志向していないと思う。日本は海外に比べて医療機関を受

診する率が高い。これを本当に必要な時に適正化と言われるが、患者サイドからすれば無用に医療機関に行きたい方はいない。やはり、診療の不安や納得感が得られない不満から重複受診になる（最近のセカンドオピニオンも含めて）。これは無駄だからということを主張することもなかなかできるものではない。とすれば、公的医療保険は何を目指してどのように持続可能な制度にしていけるか。個々人の医療ニーズをどのような方法で応えられるようにしていくのかという納得感のあるメッセージをきちんと示していく必要がある。保険料、公費（税金）、患者負担でどう負担を分担するか、特に享受する側の国民も制度を知り、守る努力が必要となる。

今から約15年前に、3割負担というルールの見直しを前提として、外来時の受診の際に、3割の他に、例えば100円の負担を別途お願いする案を厚生労働省の社会保障審議会医療保険部会に提示したことがある。記憶に残っている方もおられると思う。当時の1年間の外来診療回数の累積は22億回であり、単純計算でこれによる収入は2200億円、200円であれば4400億円であった。この財源を高額療養費の上限を引き下げること、つまり、長期入院や高額な新薬などを使われている患者さんの場合の月額の負担が上限にはりついているそれを軽減するために下げようとする目的であった。この案は否定されてその後は議論されたことはない。少しでも負担が増えるということは政治的にも難しい選択であることは十分に承知の上の提案ではあったのではあるが。

これを今に置き換えるとすると、今後さらに個人の病状に適合する遺伝子治療などオーダーメイド型の医療技術や革新的な新薬、こうした技術が高額になり保険財政への影響も大きくなると考えられ、これを保険できちんとカバーできるようにその財源に充てるために先に消えた別途負担を使う。「ペットボトル1本」「コンビニおにぎり1個」これで最新の医療を受けられると考えたらどうだろうか。これからは、個人毎のレセプトやカルテのデータを集めたプラットフォームが予定されている。全国でどんな医療がなされたかがデータとして集められる。財源がどのような形で充てられたかが見える化できる。まさに日本のこれまでの日常で当たり前と考えられてきた風景をリアルに眺められる日が来るのは遠くはない。日本の良さは国民の協力なくして、当たり前ではないということをもと考えた次第である。

最近の話題

ワクスマン温故知新

一般財団法人機能水研究振興財団 理事長

堀田 国元 Hotta Kunimoto



今年、2024年は薬学史（抗生物質史）にとって節目の年に当たるといえる。すなわち、1944年に実現した、和製ペニシリン（碧素）開発やワクスマン（Selman A. Waksman）によるストレプトマイシン（Streptomycin; SM）の発見から80年に当たるからである。

1944年は第二次世界大戦の最中であった。碧素の開発において主役を演じた研究者は、後（1957年）にカナマイシン（Kanamycin）を発見した梅澤濱夫博士である。梅澤博士（当時30代前半）は、戦後の混乱の中、日本を統治したGHQ（連合軍総司令部）が日本国民にとって緊急課題とした良質なペニシリンとSMの供給を実現するために研究面を陣頭指揮した。当時の日本では伝染病（感染症）が流行し、中でも結核は国民病といわれるほど深刻であったが、その化学療法の道を切り開いたのがSMであった。

SMの発見などについて、ワクスマン博士（1888～1973年）はノーベル賞受賞（1952年）の翌年に著した自伝『Living with the Microorganisms（飯島衛訳「微生物とともに」）』にいろいろ書き残している。博士は、帝政ロシアの圧政時代にウクライナのキーウの西方プリルカ（Priluka）でユダヤ人貧農の息子として生まれ育ち、オデーサ（Odessa）の高等学校を卒業した。その後、1910年に米国のニュージャージー州に移住し、地元のラトガース（Rutgers）農科大学に入学した。そこで、土壤微生物、とくに放線菌を研究し、やがて『土壤微生物学原理（1927年）』を著すなど国際的に著名な土壤微生物学者となった。そして、国の要請に応じて1939年から抗生物質研究を開始し、独自に確立した探索システムにより1944年にSMを発見するに到った。その年の秋、ミネソタ州のメイヨー病院

とメイヨー財団の共催による招待講演会で司会のバルフォア（D.C. Balfou）医博はワクスマン博士を以下のように紹介した。

“私たちは今夕、農業研究所の代表者ともいふべき人に講演をお願いしました。この方は医学の学位も持たず、医学を学ばれた経験ありません。しかし、現在の基礎医学者および臨床医にとって最も重要なこととお話しいたぐのです。「伝染病の処置法としての新化学薬剤の発見とその適用」というテーマです。（中略）私どもが伺いたいのは、博士がその研究と発見にいかなる段階を経て到達されたかという点に他なりません。どんな訓練と体験を積み、その結果、自然界の神秘のベールをはがすことに成功し、偉大な原理を発見し、以前には治療の術がなかった重大疾病を癒す道に到達されたか。つまり、地面に穴を掘り、無害な微生物を見つけ、それが新化学剤をつくるに至った経緯を伺いたいのです。”

この紹介スピーチから、ワクスマン博士が医学・薬学と土壤微生物学の橋渡しの道筋を開いた先駆者であることがわかる。

一方、抗生物質研究に着手する前のことであるが、著名な土壤微生物学者となったワクスマン博士は、1930年代中期に欧州各国やソ連（オデーサ）を歴訪する機会に恵まれた。その際に故郷の人たちとも会って交流を深めるとともにナチスの台頭により不穏となった社会的情勢について知ることとなった。そして、1941年6月に始まったナチスのソ連侵攻により蹂躪されたウクライナの故郷について、自由詩＜ある町の古事記＞に託して自分の感慨をその年のクリスマスに友人たちに書き送った。

<ある町古事記>

ドニエプルの流れ下るところ、そこに町があった。
豊かな黒い大地のつづく、涯しない草原(ステップ)
のただなかの、わがふるさとの町。

そこの素朴な民、職人や農民、労働者や商人、
彼らははたらき祈った。そして平和で生産に勤しんだ。
それが私の生まれ故郷。

圧政者(ツァー)は葬られ、輓(くびき)は切れた。
人びとは私や君と同じく自由の身となった。
そして幸福な未来を、目を輝かせて見た。
人びとの労働が偉大な約束を果たす日を。

ところが西から新しい圧政者ナチがやってきた。
今まで見たこともない、古い昔の残虐な者どもを
はるかに凌ぐ非情な野蛮人。
ナチは建設のためでなく、破壊のためにやってきた。

その軍隊は町を掃蕩した。あの平和な町を。
若者も老人も殺され、不具にされた。
奪えないものを奴らは壊す。
わたしの故郷の町はこうしてなくなった。

あの藁ぶきの屋根、白塗りの壁、
すべて焼きつくされて今はない。
正確な手、一発の爆弾であの町は消え失せた。
私の故郷の町は今やない。

ああ神よ! 汝の恵みは消えたのか?
悲惨と痛みだけを与え給うのか、
悪魔がこの地上の支配者たれとか?
奴らに創造の御手なる精華、人間の運命を
委ね給うのか?

ああ、永遠なる神よ、汝が復讐の天使を天駆け下せ。
圧政者ナチを除き、彼らの武器と奴隷と礼賛者を打て。
あの野蛮人を、彼らが人間の種子を滅ぼさぬうちに
打ち下し給え。

そして高い碑をたてよう。
次の暴君がふたたび現れ、同胞に権力をふるうこと
なきを、その碑に銘して。
そして正義と公正とをふたたび地上に栄えさせよう。

4年後、町は開放されたが、今はただ廃墟が残るのみ。すべての住民は立ち去った。何世紀もの昔、この地方を荒らし回ったジンギスカンの暴虐に匹敵するやり方で野蛮人は住民を打ちのめした。けれども、両者には大きな相違がある。残酷な昔の蛮族は文化に縁がなかった。近代的野蛮人はビニールの薄い文化の上衣を着て、しかもどんな未開人も及ばぬ野獣性を発揮した。

そして、ナチスの侵略からほぼ80年後の2022年2月、ロシアが不条理極まるウクライナ侵略戦争を始めた。因みに、侵攻早々に虐殺が起きたブチャはワクスマン博士の故郷プリルカの近くである。それから2年が経過したが、その間、人命もさることながら自然が破壊され、微生物を含めて多様な生物が惨殺されていることも忘れてはならない。天国のワクスマン博士はどのように感ずるであろうか。

"Out of the earth, shall come thy salvation"(地より汝の救いは来るべし)という言葉は、ノーベル賞の報せが届いたとき取材記者に感想を求められたワクスマン博士が引用した聖書の一節である。「抗生物質の宝庫」としての放線菌を通じて土壌微生物学と医学・薬学との橋渡しをした博士の功績は末永く記憶されていくであろう。

また、博士が若手研究者養成のために無償提供したSMの日本特許料を基金として1957年に日本ワックスマン財団(初代名誉総裁は三笠宮崇仁殿下、現名誉総裁は秋篠宮皇嗣殿下、現理事長は大村智博士)が設立されたことも忘れてはならない。

日本が抗生物質の研究開発で世界をリードする国となって久しい。しかし今日、自家薬籠中の技術であったβ-ラクタム原薬の醗酵生産が、技術移転した中国に牛耳られている状況にあり、大問題となっている。その解決にとって官民一体となった80年前の取組みの再現がキーと想う次第である。

令和6年度事業計画について

令和6年度事業計画は第八期中期3カ年計画（令和5～7年度）の2年目として、この中期計画の事業方針である「医療分野のデジタル化を注視しつつ、IT化を推進し、業務の効率化を図り、ガバナンスの強化等に努める」、「ユーザのニーズ等を踏まえ、サービスの質の維持・向上や新規事業の創出に取り組む」及び「研修の充実や働き方改革等により、優秀な人材の確保を図るとともに、職員の人材育成及び意欲の向上を図る」に留意しつつ事業を積極的に推進するとともに、事業を承継している動物実験実施施設認証事業についても引き続き遺漏のないよう万全を期して実施します。

以下、令和6年度の各事業の主な概要をご紹介します。

I 添付文書情報提供事業（公益目的支出計画実施対象事業：継続事業1）

1. 医療用及び一般用医薬品添付文書の収集、提供

新規及び更新分の医療用及び一般用医薬品添付文書を入手し、これをテキストデータ（XML等）に加工、保存し、出版物やデータベース等の提供に資する。

2. 医療用医薬品集等出版物の発行

医療用医薬品集、一般用医薬品集、日本の医薬品構造式集等の出版物及び電子版を発行するとともに、JAPIC医療用・一般用医薬品集電子版及び日本の医薬品構造式集の薬学系大学への無償提供を引き続き行う。

3. 医薬品添付文書関連情報のデータベースの提供

テキストデータを基に医療機関等のニーズに応じて、添付文書全文、禁忌・相互作用・用法用量の個別項目、或いは医薬品の効能効果とこれに対応する標準病名等について独自のシステムによりデータベース化し、データ提供する。

4. 効能効果の対応標準病名及び医薬品類似名称検索システム等のWEBによる提供

ホームページから無償で検索できる「効能効果の対応標準病名」及び「医薬品類似名称検索システム」並びに先発医薬品と後発医薬品群との効能効果、用法用量、添加物の違いを一覧できる「ブルーブック連携データベース」もWEBにより提供する。

II 薬事関連情報提供事業（公益目的支出計画実施対象事業：継続事業2）

1. 海外規制措置情報の提供及び海外文献情報の提供

海外の規制当局、機関における医薬品・医療機器の安全性に関する規制措置情報を提供する。ユーザニーズに即した提供情報の充実を図るため、調査対象サイトや提供内容等の見直しを随時行う。また、海外の文献情報収集については、依頼に応じて外部データベース（MEDLINE、Embase等）を利用した検索サービスを実施・提供する。

2. 大規模安全性情報（JAPIC AERSサービス）の提供

米国食品医薬品局（FDA）が提供する医薬品有害事象自発報告システム（FAERS）の公開データを基にしたJAPIC FAERSデータを提供する。また、JAPIC FAERSデータ及びPMDAが提供する医薬品副作用データベース（JADER）で公開される副作用が疑われる症例報告に関する情報のデータを用いた調査・解析サービスを提供する。

3. 医薬品情報データベース（iyakuSearch等）の提供

医薬文献情報・学会演題情報、添付文書情報、日本の新薬（新薬承認審査報告書）の情報等、JAPICが保有する医薬品に関する情報を一般に公開する。

4. その他の薬事関連情報の提供

日本製薬工業協会の各委員会等編集の書籍を販売する出版事業及び各委員会主催の講演会等を開催するセミナー事業を受託事業として円滑に実施する。

5. 図書館の運営

医学・薬学関連の学会関係資料と国内外の逐次刊行物を迅速に収集し、安全性情報確保業務の基盤となる資料として活用し、保管・管理する。

Ⅲ 医薬文献情報提供事業（その他の主要な事業）

1. 医薬文献・学会情報の提供（JAPIC-Q、JAPIC-QX、JAPIC-Q医療機器等）

国内で開催される医学・薬学関連の学会予稿集・プログラム・学会報告及び学術雑誌を基に、医薬品及び医療機器・再生医療等製品等の適正使用に必要な有効性、安全性及び品質に関する情報を迅速かつ精度の高いデータとして提供する。また、令和6年度中に次世代システム開発に向けた検討に入る。

2. 医薬文献・学会情報データベース等の提供

医薬文献情報・学会演題情報等の医薬品の基礎から臨床までの有効性・安全性・品質に関する情報等を蓄積したデータを外部の情報提供機関を通じて提供する。

3. 動物実験実施施設外部検証・認証事業

動物実験実施施設における動物実験等の実施に関して、動物実験等の自主管理の促進と共に動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験等が実施されているかを書面ならびに実地調査にて外部検証・認証する事業を行う。なお、必要に応じて、実地調査方法の見直しを検討するとともに、認証評価員の情報共有・研修を実施し、的確な評価を推進する。

Ⅳ その他

運営基盤の強化として、新たな公開データベースについて令和6年度中の稼働・公開をめざすなどの最適化等を進めるとともに、計画的な人材育成と確保などの組織・人員体制の強化を行う。

JAPICは、医薬品・医療機器等の情報収集・提供の専門機関として、今後も皆様からのご要望に応じた事業展開・運営を遂行してまいります。

会員の皆様には、令和6年度事業計画について、引き続きご理解ご支援をいただきましたら幸いです。

「理事会」「評議員会」の概要報告

3月12日（火）に令和5年度第3回理事会、27日（水）に令和5年度第2回評議員会を開催いたしました。

今回の主な議題でありました令和6年度事業計画・収支予算について、理事会及び評議員会において審議を行い、承認・議決されました（議題と主な内容は以下のとおり）。会員の皆様には、事業計画書を先般ご送付いたしました。

○「令和5年度第3回（通算第163回）理事会」

3月12日（火） 15:00～15:50, 当センター4階会議室

《議題》

1. 令和6年度事業計画（案）について
2. 令和6年度収支予算（案）について
3. 役員報酬規程の改定について
4. 報告事項
 - （1）維持会員の異動について
 - （2）代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

○「令和5年度第2回（通算第55回）評議員会」

3月27日（水） 15:00～15:50, 当センター4階会議室

《議題》

1. 役員報酬規程の改定について
2. 報告事項
 - （1）令和6年度事業計画について
 - （2）令和6年度収支予算について

iyakuSearchのシステム改修につきまして

ー「添付文書情報」の機能改修点についてー

「iyakuSearch」は画面のユーザビリティ・機能等の改善を進めているところです。今回は「添付文書情報」の機能改修点をご案内いたします。

- ・ 添付文書のすべての項目を対象として検索ができるようになります。
- ・ 添付文書PDFに加えて、インタビューフォームPDFも表示できるようになります。
- ・ 複数の製品を比較表示できるようになります。
- ・ HTML表示のCSVダウンロードができるようになります。
- ・ 使用頻度の高い項目だけに絞るなど、ユーザ毎に検索項目、表示項目、ダウンロード項目のカスタマイズができるようになります。

<詳細検索>



<比較表示>

製品名	PDF	PDF	PDF
トラタリア錠2.5mg	ボセンタン錠2.5mg「DSEP」	ボセンタン錠2.5mg	ボセンタン錠2.5mg
一般名	ボセンタン塩化物	ボセンタン塩化物	ボセンタン塩化物
会社名	新薬開発：サンセイファーマ	新薬開発：第一三共エスファ	新薬開発：第一三共エスファ
添付文書	トウモロコシゼンザン アルファ-化ゼンザン カルボキシメチルスターチス製剤 ボビドン グリセリン脂肪酸エステル ステアリン酸製剤 ヒドロキシプロピルセルロース トリアセチン カルボ 酸化セチン 黄色三三酸化鉄 正辛基セルロース水分散剤	トウモロコシゼンザン アルファ-化ゼンザン ゼンザングリコール酸ナトリウム ボビドン 乳糖水化物 精製セルロース デキストロース ステアリン酸 スチアリン酸マグネシウム	トウモロコシゼンザン アルファ-化ゼンザン ゼンザングリコール酸ナトリウム ボビドン ステアリン酸 ステアリン酸マグネシウム 酸化セチン 黄色三三酸化鉄 正辛基セルロース水分散剤 タルク
4. 効能・効果	○ 肺動脈圧亢進症（WHO機能分類クラスII、III及びIV） ○ 肺動脈圧亢進症に伴う右心室肥大の処置（ただし右心室肥大を伴わずに肺動脈圧亢進症のみを伴う場合は除外）	肺動脈圧亢進症（WHO機能分類クラスII、III及びIV）	肺動脈圧亢進症
4. 用法・用量	通常、成人には、投与開始から4週間後は、ボセンタンとして1錠2.5mgを1日2回頓下剤として投与する。投与5週間後、ボセンタンとして1錠12.5mgを1日2回頓下剤として投与する。なお、用量は患者の症状、容体などに応じて適宜増減するが、最大1日250mgまでとする。	通常、成人には、投与開始から4週間後は、ボセンタンとして1錠2.5mgを1日2回頓下剤として投与する。投与5週間後、ボセンタンとして1錠12.5mgを1日2回頓下剤として投与する。なお、用量は患者の症状、容体などに応じて適宜増減するが、最大1日250mgまでとする。	通常、成人には、投与開始から4週間後は、ボセンタンとして1錠2.5mgを1日2回頓下剤として投与する。投与5週間後、ボセンタンとして1錠12.5mgを1日2回頓下剤として投与する。なお、用量は患者の症状、容体などに応じて適宜増減するが、最大1日250mgまでとする。
薬価	3399.2円/箱	992.5円/箱	992.5円/箱

<機能の比較>

機能 (Plus限定の機能を含む)	新しいiyakuSearch	現行iyakuSearch
検索項目	医療用：薬効分類、製品名、一般名、会社名、組成・性状、効能効果、用法用量、使用上の注意、薬物動態、臨床成績、薬効薬理などの添付文書のすべての項目を網羅 一般用：医薬品区分、リスク区分、薬効分類、製品名、成分名、会社名、効能効果、用法用量、使用上の注意などの添付文書のすべての項目を網羅	医療用：薬効分類、製品名・一般名、会社名 一般用：医薬品区分、リスク区分、薬効分類、製品名・一般名、会社名
添付文書PDF	○	○
インタビューフォームPDF	○*	×
HTML表示	○	×
比較表示	○*	×
CSVダウンロード	○	×
更新頻度	医療用：週1回 一般用：月1回	医療用：週1回 一般用：月1回

*医療用のみ

くすりの散歩道

NO.160

サウナの世界

(一財)日本医薬情報センター 添付文書情報担当

牧野 智之 Tomoyuki Makino



ここ数年で大きな盛り上がりを見せているサウナ。現在のサウナブームは2019年に放送されたドラマ「サ道」を皮切りに巻き起こったと言われていますが、遅れること3年、2022年9月の北海道の地にて、私はサウナの魅力にとりつかれました。

私自身、子供の頃から銭湯に行く機会は多かったのですが、当時は息苦しくて暑いサウナ室に入ることも、震えるような寒さの水風呂に入ることも、“謎の椅子”に座ってボーっとしている行動も何一つ理解できませんでした。しかし一度サウナの魅力にとりつかれてからは、理解できなかったこの3つの行動をまとめて「1セット」と称し、謎の椅子を“整い椅子”と崇め、ひとたびサウナ施設に行けば、3～5セットをこなすサウナー（サウナ愛好家）へとなり果てたわけです。

サウナの魅力と言えば、やはり「ととのう」感覚を味わえることでしょう。具体的にどのような感覚なのかと聞かれると言語化が難しいのですが、全身で呼吸をしているような、研ぎ澄まされた感覚とも言うのでしょうか。ドラマ「サ道」では「思考から感覚の世界に切り替わる」という表現が使われていますが、確かに無駄な考え事が頭から離れ、思考をリラックスさせることができるのもサウナの醍醐味の一つかもしれません。

とはいえ、サウナであれば何でも良いのかと言われればそんなことはなく、やはり好みのサウナというものがあります。ミスト式かドライ式か、サウナ室の温度・湿度、ロウリュの有無、水風呂の温度、水風呂から整い椅子までの導線、等、サウナを構成する要素は多岐にわたります。多くのサウナ施設が誕生する中で、様々なサウナに足を運び、自分好みのサウナを発見できたときの喜びもまた一つの魅力と言えるでしょう。

ところで先ほど突然現れた「ロウリュ」という言葉をご存知でしょうか。ロウリュとはフィンランド語で、ヒーターに積まれた石に水をかけ、蒸気を発生させることを意味します。施設によってはアロマ

水が使用されている場合もあり、アロマの良い香りが蒸気によってサウナ室に充満し、よりリラックスした状態でサウナを楽しむことができます。ちなみにロウリュで発生した蒸気をタオル等で扇ぎ、熱波を広めることを「アウフグース」と呼びます（こちらはドイツ語です）。他にも「羽衣」や「あまみ」、「ウィスキング」といったサウナならではの言葉が数多く存在していますので、興味のある方はぜひ調べてみてください。

さて、最後にサウナが健康へ与える効果について触れてみたいと思います。サウナの起源はおよそ6000年前のフィンランドにあり、厳しい寒さと労働の疲れを癒すための自然健康法として生み出されたと言われています。サウナ室の高温環境下と水風呂の低温環境下において身体の恒温装置が機能し、身体の温度を下げる、あるいは上げるように血圧や各器官の働きが調整されるわけですが、極端な温度変化に繰り返し身体を曝すことによって、上記の恒温装置が活発に機能し、健康に良い効果が得られると言われています。一方で、心肺機能に負担をかけている側面もあり、体調次第では健康に好ましくない影響を与える可能性もありますので、無理をせずに心地良いと感じられる範囲で楽しむことが重要と言えるでしょう。

フィンランドの「サウナの金言」の一つに「歩けるうちはサウナに入れよ」というインパクトの強い言葉がありますが、歩けるうちは無理をせずにサウナに入れるほど健康でありたいと願うばかりです。

・参考映像作品
サ道：第二話「錦糸町・黄金湯」.BSテレ東,2021-10-13. (テレビ番組)

・参考文献
知っておきたいサウナ・スパの健康知識
公益社団法人日本サウナ・スパ協会

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2024年3月1日～3月31日分のJAPIC Weekly News (No.944-947) の記事から抜粋

■米FDA

- Class I Recall: Wipro GE Healthcare Private Ltd., ドアラッチの問題のためCare Plus, Care Plusモデル1000～4000およびLullaby Incubatorsをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/wipro-ge-healthcare-private-ltd-recalls-care-plus-care-plus-models-1000-4000-and-lullaby-incubators>>
- Class I Recall: Datex-Ohmedaは、CARESCAPE R860, Engstrom Carestation, Pro人工呼吸器と併用した場合に、特定の状況下でformaldehydeの放出が検出されたため、EVair Airコンプレッサーをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/datex-ohmeda-recalls-evair-air-compressors-due-formaldehyde-emissions-found-specific-conditions-when>>
- Class I Recall: Smiths Medical ASD Inc., 旧ソフトウェアバージョンに関連する問題により、Medfusion Model 3500 Syringe Pumpをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/smiths-medical-asd-inc-recalls-medfusion-model-3500-syringe-pump-due-issues-associated-earlier>>
- Class I Recall: Cardinal Health, 製造変更のため、滅菌Monoject Luer-LockおよびEnteral Syringeをリコール(更新情報)
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/cardinal-health-recalls-sterile-monoject-luer-lock-and-enteral-syringes-due-change-manufacturing>>
- Class I Recall: Ventec Life Systems, 結合式スパイラルラップの製造上の問題のためVOCs Patient Breathing Package (Pediatric, Active, Oxygen, Blue)をリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/ventec-life-systems-recalls-vocsn-patient-breathing-package-pediatric-active-oxygen-blue>>
- Class I Recall: Medtronic Neurosurgery, 患者ラインの活栓コネクタからカテーテルが離脱する可能性があるため、Duet External Drainage and Monitoring Systemのカテーテルチューブをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/medtronic-neurosurgery-recalls-duet-external-drainage-and-monitoring-system-catheter-tubing-due>>
- Class I Recall: Abiomed, 穿孔のリスクがあるため、Impella Left Sided Blood Pumpsの使用説明書をリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/abiomed-recalls-instructions-use-impella-left-sided-blood-pumps-due-perforation-risks>>
- Class I Recall: Vyair Medical, Inc., 製造上の欠陥により損傷または死亡に至る可能性があるため、AirLife Manual Resuscitatorをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/vyair-medical-inc-recalls-airlife-manual-resuscitators-due-manufacturing-defect-can-lead-injury-or>>

■EU・EMA

- Direct healthcare professional communication (DHPC): Paxlovid (nirmatrelvir/ritonavir): 生命を脅かすおよび致死的な、特定の免疫抑制剤 (tacrolimusを含む) との薬物-薬物相互作用について注意喚起
<https://www.ema.europa.eu/en/documents/dhpc/direct-healthcare-professional-communication-dhpc-paxlovid-nirmatrelvir-ritonavir-reminder-life-threatening-fatal-drug-drug-interactions-certain-immunosuppressants-including-tacrolimus_en.pdf>

■豪TGA

- Withania somnifera (Withania, Ashwagandha) 含有医薬品: Safety advisory—胃腸症状および非常に稀な肝損傷の症例の可能性
<<https://www.tga.gov.au/news/safety-alerts/medicines-containing-withania-somnifera-withania-ashwagandha>>
- faricimab (Vabysmo) の網膜血管炎のリスクに関する更新された警告
<<https://www.tga.gov.au/news/safety-updates/updated-warnings-faricimab-vabysmo-retinal-vasculitis-risk>>

■ニュージーランド Medsafe

- Alert Communication: アーユルヴェーダ医薬品による鉛中毒の最近の症例
<https://www.medsafe.govt.nz/safety/Alerts/Ayurvedic_Medicines_Lead_Poisoning.asp>

■シンガポール HSA

- Zyrtec-D—pseudoephedrineの使用に伴う可逆性後白質脳症候群および可逆性脳血管収縮症候群のリスク
<<https://www.hsa.gov.sg/announcements/dear-healthcare-professional-letter/zyrtec-d---risks-of-posterior-reversible-encephalopathy-syndrome-and-reversible-cerebral-vasoconstriction-syndrome-associated-with-the-use-of-pseudoephedrine>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC Weekly News (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC Weekly Newsサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://tech.libblabo.jp:53081/blabo/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
AHFS Drug Information 2024	American Society of Health-System Pharmacists	American Society of Health-System Pharmacists	2024年
JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2024	一般財団法人日本医薬情報センター 編	一般財団法人日本医薬情報センター	2024年3月31日
June 2023 MIMS Annual (Australian Edition)	MIMS Australia	MIMS Australia	2023年
MRテキスト2024 MR総論	公益財団法人MR認定センター 編	公益財団法人MR認定センター	2024年4月
MRテキスト2024 医薬品情報	公益財団法人MR認定センター試験委員会 監修	公益財団法人MR認定センター	2024年4月
MRテキスト2024 疾病と治療	公益財団法人MR認定センター試験委員会 監修	公益財団法人MR認定センター	2024年4月
日本の医薬品 構造式集 2024	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2024年3月15日

情報提供一覧

2024年4月1日～4月30日提供

情報提供一覧		発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース		更新日
〈出版物・CD-ROM等〉			〈iyakuSearch〉Free		https://database.japic.or.jp/
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2024年3月分 (HP定期更新情報掲載)		4月 1日	1. 医薬文献情報		月 1 回
2. JAPIC 「医療用・一般用医薬品集インストール版2024年4月版」		4月30日	2. 学会演題情報		月 1 回
3. 2024年版 「医薬品製造販売承認品目一覧」		4月30日	3. 医療用医薬品添付文書情報		毎 週
4. 「JAPIC NEWS」No.480 2024年5月号		4月30日	4. 一般用医薬品添付文書情報		月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉(郵送、電子メール等で提供)			5. 日本の新薬		随 時
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」		毎 週	6. 学会開催情報		毎 日
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」		毎 週	7. 医薬品類似名称検索		随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」		月 1 回	8. 効能効果の対応標準病名		月 1 回
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」		月 2 回	〈iyakuSearchPlus〉 https://database.japic.or.jp/		
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」		毎 日	1. 医薬文献情報プラス		月 1 回
6. 「JAPIC Weekly News」		毎 週	2. 学会演題情報プラス		月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」		毎 週	3. JAPIC Daily Mail DB		毎 日
			外部機関から提供しているJAPICデータベース		
			〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 https://jdream3.com/		
			〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 https://telecom.nikkei.co.jp/		

医療用医薬品集

普及新版2024

2024年
3月発行

価格：5,280円(税込)

A5判／約1,900頁

本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約4,600頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,300成分、約21,000製品の医療用医薬品情報を2024年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- | | |
|--------------|------------------|
| ◎一般名、製品名 | ◎特定背景関連注意 |
| ◎承認日(一部製品) | ◎相互作用(併用禁忌・併用注意) |
| ◎組成(規格) | ◎副作用 |
| ◎効能・効果、用法・用量 | ◎高齢者への投与 |
| ◎警告 | ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与 |
| ◎禁忌、原則禁忌 | ◎小児への投与 |
| ◎慎重投与 | ◎臨床検査結果に及ぼす影響 |
| ◎重要な基本的注意 | ◎薬物動態における半減期 |

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC

丸善出版株式会社

編集・発行 TEL 0120-181-276

発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせは事務局 渉外担当(TEL 0120-181-276)まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

さるおがせ

「猿尾枷」と書く。学名:Usnea longissima。地衣類。さるおがせ科さるおがせ属。ブナ林など落葉広葉樹林の樹皮上に着生して、長くたれ下がる。空気中の水蒸気を吸収、水分と光合成だけで成長。barbatic acid(抗腫瘍作用)等含有。(hy)



JAPICホームページより

<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。